

第13回「日本語大賞」

テーマ「 」に伝えたい言葉

一般の部 優秀賞 受賞作品

先生ごめんなさい、そして

愛知県
立川 花帆

特定非営利活動法人 日本語検定委員会

先生ごめんなさい、そして

立川 花帆（たちかわ・かほ）

午後八時四十二分。湯船に浸かって歯を磨きながら、私の脳内では議論会が行われる。明日の服はどうしよう。今週はどう予定を立てて過ごそう。今日、あるとき私が発した言葉は相手にどう伝わっていただろう。その日その日の気分によって議題は変わる。最近疲れが溜まっていくからか、過去を思い返して少し暗い気持ちになることが多い。だからいつも、締めめの言葉は「大丈夫、大丈夫」。自分自身にそう言い聞かせて、深呼吸をして、脳内議論会は終わる。

思えば、中学一年生の頃、様々な悩みを抱えていた私に、担任の先生はよく「大丈夫、大丈夫」と声をかけてくれた。本当に大丈夫かなんて分からない。それでも、大丈夫なのだと思っていて声をかけてくれる人がいるだけで不安は和らいだ。「大丈夫」という言葉は魔法の言葉だと思った。

三年間の中学校生活、先生には何度も相談に乗ってもらい、お世話になった。先生は卒業後も定期的に「最近どう？ 元気にしてる？」と連絡をくれた。その度に「元気です」と返信し、近況報告をした。

高校二年生になった頃、私は心が壊れた。もともと、些細なことを気にして悲観的になりやすい性格だったが、そこにストレスを強く感じる出来事と睡眠不足が重なった。生きていくということがどうしようもなく辛くなった。笑うことも、息をすることさえも苦しく感じるようになった。そんな私の状態を見た周囲の人からは精神科を受診するように勧められ、その後入院することになった。

これからどうなってしまうのだろう。学校に来なくなった私を、クラスメートの皆はどう思うのだろう。休みすぎて、進級できなくなったらどうしよう。いつか、元気に学校に行けるようになる日は来るのだろうか。両親やお姉ちゃんや親戚の皆は、私に対してどんな気持ちを抱くのだろう。そもそもどうしてここまでして、苦しい人生を生きなきゃいけないんだろう。全てが不安で、恐怖で、真っ暗だった。

先生の連絡に「元気です」と返せなくなった私を、先生は心配した。私が近況を話すと、先生はこんなメッセージをくれた。

「大丈夫。全ていい方向に行くからね。そう祈っているからね。」

先生は、私の不安を取り除くために「大丈夫」という言葉を選んでくれたのだと思った。しかし、当時の私にとって、何の根拠もなく与えられた「大丈夫」は、孤独そのものだった。視野狭窄に陥り、何も見えない真っ暗な闇の中にいた私は、どんなに優しい言葉も、どんなに前向きで希望に満ち溢れた言葉も、どこか遠くに感じて苦しくなった。受け入れることができなかった。言葉はただの言葉。どんな人も救える魔法の言葉などないのだと思った。

言葉は、必ずしも発した人の思い通りに伝わるとは限らない。受け取る相手の価値観や状況によって解釈が変わる。先生はいつも、私を安心させるために「大丈夫」という言葉を選んだ。私はその言葉に救われながら、時に苦しむこともあった。同じように、私が今まで良かれと思っただけの言葉も、知らず知らずのうちに相手を傷つけることがあったかもしれない。言葉は難しい。その場の状況や相手に合わせて、誤解なく思いが伝わるような言葉、傷つけないような言葉を判断できるようにになりたい。相手の苦しみや感情、求めているもの

を瞬時に理解できるようになりたい。そうすれば、ただの言葉だつて魔法のように自由自在に使えるのだろう。人間である私は、たとえ家族や親友であつても相手がどんな感情を抱えているのかを完全に理解することはできないし、相談をしてきてくれた友達に上手い言葉が何も言えない。私は、言葉を自由自在に使えない。それは、人間である誰もが同じことなのかもしれない。

入院していた当時、私は先生の言葉に対して悲しみとほんの少しの苛立ちを覚えた。先生に向かつて「大丈夫って言わないでください」と返してしまった。そのことを思い出すと、謝りたい気持ちでいっぱいになる。

先生、先生が言ってくれた「大丈夫」に対して、失礼な態度をとつてごめんなさい。きつと先生は、当時の私にどんな言葉をかけたら良いか分からなかったはずです。それでも私のことを見捨てずに、たくさんの言葉を送り続けてくれて、ありがとうございます。あの時の先生の言葉に込められた思いは、時を経て、今の私の心に届いています。今となつては、「大丈夫」という言葉を自分で自分に言い聞かせるようになりました。

謝る言葉を考えていたら、謝りたい気持ちを押し流すように、感謝の思いが溢れた。そうだが、今日はお風呂を上がったら、先生に連絡しよう。いつ何が起こるか分からないこのご時世で、伝えたい言葉は伝えられる時に伝えなければいけないと思う。思いがうまく伝わるかどうかは分からないけれど、伝えないまま後悔するよりずっといい。

私は、この先も言葉を上手に使いこなせるようにはなれなくて、きつと誰かを傷つけてしまうし、誰かの言葉に傷ついてしまう。そんな長い人生を思うと少し憂鬱な気持ちにもなるけれど、自分の思いはどう表現すればより伝わるのかを考えたり、誰かからもらった一つ一つの言葉に込められた思いを感じ取ったりして、時間をかけながら言葉の解釈の世界を広げていく人生も悪くないのかもしれない。人生、苦しいことばかりじゃないはず。

大丈夫、大丈夫。

深呼吸をして、湯船から出る。